

ひびき

Vol.7

森まさき

議会報告

編集・発行

森まさき

TEL0859-39-3190

Fax0859-39-3191

〒689-3537

米子市古豊千 304

いよいよ新『米子市』誕生へ

来る3月31日新『米子市』が誕生します。

旧米子市の市民の皆さんの生活はほとんど変わりませんが、市役所一階に「フロアマネージャー」といって、「この手続は、どこですればよいのか?」「困っていることがあるんだけど、どこで相談したらよいですか?」などの市役所にお越しのかたのお話を聞き、ご案内をする係(2人体制)を新設します。

これまでとかく「市役所は【たらい回し】をして実際に処理するものものすごく待たせる。」などの市民の皆様の声を踏まえ設置されるものです。

森 OPINION

私はフロアマネージャーとはなく、総合窓口といつて1箇所の窓口で全ての手続きができる窓口の設置を求めています。

旧淀江町の町民の皆さんにとつては、役場機能が変わって来ます。淀江支所(支所長・部長級以下40人) 振興課 総務係、行政係 市民生活課 市民係、税務保険係 健康福祉課 福祉係、保健衛生係 地域整備課 事業係、経済係 教育委員会事務局淀江分室 以上の体制で事務がとられます。

2004年12月議会質問

(1) 通学路への防犯灯の設置について

■議員 奈良の小1女兒誘拐殺害事件をどのように受け止めているか。

通学路の安全点検はどうなっているか。

■教育長 盧卑劣で凶悪な犯行であり、まことに痛ましく、大変胸が痛む思いでいる。まったく特殊な事件と思いたいが、本市においても、このような事件が起こる危険性がある。

児童生徒の日常生活の中に潜んでいると考えなければならぬ。強くなる。注意を喚起していく必要があると考えている。

■議員 夜間の通学路を明るくする必要があると考えるがどうか。

■教育長 通学路の防犯灯は、学校からの要望に基づき、郊外の校区を中心に集落と集落の間を調査し、地元との協力を得て危険箇所を設置してきた。今後も要望があれば、調査し、必要な箇所は道路管理者に要望したい。

■議員 私の調査では、箕蚊屋中学校区の不審者の出没する危険箇所は中学校付近の田んぼの中の通学路だと分かった。また、過去この付近で事件が多発していることも分かった。現行制度では農道であるため、街路灯の補助対象にならず、自治会が田んぼの中に防犯灯を設置することができない。市が防犯灯を設置する必要があると思うがいかがか。

■市長 犯罪から住民を守り、安全で安心のまちづくりを進めるには、警察、自治体のみならず、住民や事業者を始め、地域で生活するすべての者が連携・協力しながら、それぞれの役割を果たすことが重要である。そういう事例があれば、その危険箇所での問題解決について、地域みんなで考えていかなければならない。

■議員 女子中学生・女子高校生は夜、田んぼの中を自転車や無灯火で帰ってくる。ライトをつけると不審者に見つかって襲われるかもしれないからそうだ。そういう現状であることも分かっていた。行政が何か手を打たないといけないと考えている。現行の施策メニューではどうにもならない。違う対策を打ち出さなければならぬ。費用がかかるのであれば、防犯灯器具の購入代金と電気料金ということになる。この対策を市の方で考えていただきたい。

森 OPINION

私の住んでいる箕蚊屋中学校区は、これまで漠然と安全で安心なところだと信じていました。しかし、警察から実態を聞いてみると、びっくりする事実が出てきました。

田んぼの中の農道が実は危険なところでした。どんなに大声を出しても近くに人が家が無い。そういう場所でした。今後、通学路への街灯(防犯灯)の設置や、通学路の安全点検等、を通じ、安全安心なまちづくりを追求していきたいと思えます。

2004年6月議会

(1) 学校給食について

■議員 給食センターからの配送校において、保護者から給食を食べる時間が足りないという声を聞いている。給食を余裕をもって食べることで、かつ、食育の場とするために、給食センターからの引取時間の調整及び学校の体制、また、給食センターから学校へ給食を配送する体制、時間について弾力的な運用ができないか。

■教育長 食べる時間が足りないということはないと認識しているが、議員の指摘がもし事実であるなら、学校を指導したい。また、配送時間に問題があれば再度調査をし、必要であれば配送計画全体を見直したい。

■議員 食育指導はどうか。

■教育長 今年度より学校栄養職員6人が協力しながら学校を訪問して、総合的な学習の時間や給食時間などに、食に関する全般的な指導を行っている。また、現場の調理員も給食時間に学校を訪問して、直接子どもたちとふれあい、給食を作る側の立場で、食べ残しを少なくするように呼びかけている。

■議員 学校によって、残滓が多い学校と少ない学校があると聞いている。給食の意義を十分に指導いただくとともに、残滓を減らす努力をお願いしたい。

森 OPINION

過去給食が導入された背景には、戦後の栄養不足の影響もあり、「子どもたちの栄養を確保する」という大きな目標がありました。

現在の日本は飽食の時代となり、現実に大量の食料が廃棄されており、子どもたちの栄養を・・・など、意義がすでになくなったと考えられている方も多くおられると思います。

しかし、実際には、食生活、食習慣等が大きく変わり、子どもたちの間には「孤食」「偏食」「ダイエット」「過食」等が蔓延しています。このままでは、20年後30年後の大人たちは、全員が生活習慣病となってしまう。

このような背景の中給食は、食べられない子どもたちの栄養を保証し、成長のための「食育」の場となっています。ぜひ、米子市に中学校給食を導入するとともに、給食内容・時間ともに充実する必要があると思います。

(2) 都市計画区域のみなおしについて

■議員 都市計画区域外である伯仙地区では、大規模な住宅開発が進み、秩序ある米子市の発展ということになっていない。伯仙地域を計画区域に編入する見直しの考えはないか。

■市長 伯仙地区は、大規模な住宅地開発などにより無秩序な都市的の悪化が懸念されている。昨年度策定した都市計画マスタープランでは、伯仙地区は、豊かな自然環境や田園環境のもとに調和のとれたまちづくりをするため、地域の皆様の意見を聞きながら、関係機関とも協議を行い、都市計画区域への編入を検討する考えである。

■議員 本来、都市計画は市町村界をもって行うものではなく、生活圏をもって行うものである。

しかし、米子市周辺の町は都市計画区域外となっており、米子市に隣接するところに大規模な住宅開発がなされている。米子市内のみ線引きをし、規制をしている意味はないと考える。線引きを廃止する考えはないか。

■市長 市街地の無秩序な拡大を防ぎ、基盤整備が不十分な市街地の形成を強く抑制する必要がある、引

き続き、線引き制度は保持する必要がある。議員 今後議論していきたい。

森 OPINION

米子市は米子市、境港市、日吉津村と都市計画区域を設定し、いわゆる線引きをしています。(これは、住宅の建てることのできる地域と、できない地域を線引きにより規制する政策です。土地の規制はします、価格政策は行いません。)したがって、供給量、需要にもよりますが、市街化区域の土地の値段は高騰していきまます。

需要側の家を求める人は、当然経済原則で、安くて条件の良い土地を求めます。結果として、米子市内の市街化区域内の土地は余っていて、安い都市計画区域外の土地(例、伯仙地区、隣の南部町、伯耆町、淀江町等)に多くの人が土地を求められ、多くの団地ができました。米子市だけのことを考えれば、米子市の土地政策がうまくいってれば、米子市民になられたかもしれませぬ。米子市内だけで線引きをしても結局意味がありません。するならば、経済圏・西部圏域全てで線引きをし、全体での都市計画を議論するべきです。